

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年1月9日

【評価実施概要】

事業所番号	1175700168
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	グループホームみんなの家・蓮田東
所在地	〒349-0111 埼玉県蓮田市東2-1-19 (電 話) 048-765-5080
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年1月9日

【情報提供票より】(平成20年12月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年10月1日			
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計 27 人		
職員数	28 人	常勤 19人,	非常勤 9人,	常勤換算 19.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての3階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000円 + 実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	370 円	昼食 490 円
	夕食	490 円	おやつ 100 円
	または1日あたり 円		

(4) 利用者の概要(12月15日現在)

利用者人数	25 名	男性	8 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77 歳	最低	59 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上尾中央病院、さいたま記念病院、ういずクリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、最寄り駅から徒歩10分程度という交通の便の良い複数の福祉施設がある住宅地に立地した3階建て3ユニットの建物である。利用者はエレベーターで自由に行き来することができ、各階の南側の窓辺には椅子やソファが配置され、ゆったりした環境作りがされている。職員はホームの理念のもと、家庭的な雰囲気の中で利用者の意向を尊重しながら見守り、時間がかかっても利用者が自立した生活を送ることができるように支援している。また、共用空間の食堂の机はひょうたん型であり、利用者とのコミュニケーションがとりやすくなっている。近隣の福祉施設と合同で年1回バザーを開催し、ホームで作った作品などを出品したり、ボランティアの受け入れや散歩時のごみ拾いなどを通して地域との交流に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部研修については、行政主催の会議等に参加して情報を交換し、その内容を業務に反映できるように努力をしている。また、重度化や終末期の対応については、対象者の家族や主治医と具体的な対応を職員全体で検討しているところである。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価をサービスの質の向上のための機会として捉え、フロア会議で職員全体の意見を吸い上げ、フロア長が整理した上でホーム長が作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2か月に1回開催され、主にホームからの報告事項について協議している。また、委員の中に地域代表もいることから、地域の情報を得ることができ、地域との交流にも役立てている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会が設置されており、年2回の会議で提案等をもらっているほか、運営推進会議にも家族会が委員として入っている。また、本部にお客様相談室を設けて意見を聞いているほか、新たに利用者の家族にアンケート用紙を郵送し意見を聞いている。ホームの玄関にも「ご意見箱」を置き、様々な方法で意見や提案を取り入れ、利用者のサービスアップに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の福祉施設と合同で開催するバザーに地域の方々を案内したり、ボランティアを受け入れたり、利用者や散歩時にごみ拾いなどを行っている。また、消防署が参加する消火・避難訓練には近隣の家庭にお知らせを配布し、見学、参加を願うなど積極的に交流を図っている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の意思、人格尊重を前提にして、ゆっくりと楽しみながら生活を送れることを目標に理念を掲げ、ホーム長、フロア長を中心に職員が日々の暮らしの中で実践をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やフロア会議で理念に触れ、理念にそったサービスの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年行われる福祉祭り、2か月に1回開催される運営推進会議、ボランティアの受け入れなどを通して交流が図られている。また、利用者が散歩時にごみ拾いをするなど、自然に地域の人たちと話をするようにして日常的な交流もなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価に取り組むことは、業務の振り返りや気付きにつながる機会として捉えており、フロア会議などで議論して全員が納得した上で自己評価票を作成している。また、外部評価で課題とされたものについても職員で話し合い、サービスアップに努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催され、主にホームからの報告事項について協議するとともに、地域からの情報も得るようにして地域との交流を図っている。会議の中で話し合われたことで運営に反映できるものは、職員会議等で検討し反映させている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市にホームのパンフレットを届けたり、年2回市が開催する会議に参加して市との交流を図っている。また、何か生じた際も随時連携をとるよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	本部発行のネット通信の中に収支報告、フロア長による利用者の状況報告を毎月郵送している。また、訪問診療の結果については状況に応じてすぐに電話するなどして対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本部にお客さま相談室を設けてあるほか、年2回家族会を開いて家族の意見を聞く機会を作っている。また、ホームの玄関には「ご意見箱」が設置されている。意見、苦情などについてはフロア会議で話し合い、出来る限り対応するように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の状態に合わせて対応を検討し、ダメージが少ない方法をとっている。また、家族には「ネット通信」により前もって知らせている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修・継続研修は法人内で完備されており実践されている。外部研修については、行政主催の会議等に出席して情報を交換するとともに、その内容を業務に反映できるように努力をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の交流、情報交換は活発に行われている。他法人との交流、情報交換は、今後どうして行くか検討しているところである。	○	他法人の同業者との交流や情報交換は、利用者へのサービスアップや職員の資質の向上にも参考となるため、今後、勤務ローテーションを工夫して活発な交流がなされることが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	実態調査及び本人と家族で十分に話し合い納得の上で利用している。また、入居して日の浅い方については、職員側主体の介護にならないように十分注意しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員側からの話に終わることなく、食事中の会話や季節感のある話題などを通して、思いを共感し合いながら日々過ごすようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当の職員が、普段の暮らしの中で十分に利用者と向き合い、話し合いや見守りを通して一人ひとりの思いや意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望、意向を十分に聞くとともに、職員会議でカンファレンスを開き医師や看護師のアドバイスを受けたものを整理し、家族の了解を得て介護計画を作成している。その際、家族からは了解の印をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則6か月に1回、定期的な見直しを行っている。また、利用者に骨折や入院等があった場合は、本人、家族、職員、関係者で検討し新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護タクシーの利用や本人、家族の希望や状況により受診の介助や診察の同席を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にしている。また、何かあった場合の医療機関については、入居契約時に提携の医療機関の説明を十分に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の指針には、終末期の方針が明記されている。ホームとしても利用者、家族の希望があれば関係者から話を聞き、出来る範囲で対応したいと思っている。	○	ホームとしてどこまで介護面で対応出来るのか具体的に検討し、関係者全体で一定の対応策を共有することが期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	支援においては、人格を損なわないように言葉遣いなど十分配慮した対応に努めている。また、会議等での話し合い時には、個人名を出さないように注意している。記録等についても事務所で厳重に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースを尊重して見守りながら支援している。また、その方の状態に合わせて声をしながら希望にそった生活となるような環境作りをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常の食事は、栄養士がバランスの良い献立をし調理師が作っている。おやつや行事食については、利用者と職員が計画を立て、買い物や調理、配膳、下膳などを楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴支援としているが、希望があれば利用者の状態により毎日入浴が可能である。入浴を避けるような方に対しては、無理強いせず、自然に入れるような声掛けをしている。入浴困難な利用者については中間浴等も実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味などを活かし、草花の植え替え、水やり、囲碁、将棋等をして力を発揮してもらっている。また、ボランティアの来所時には、近隣の有料老人ホームの利用者と一緒に楽しみながら過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園の散歩、買い物、ドライブなど出来る限り外出できるよう心がけている。また、天気の良い日には車椅子利用者も外出できるように職員が工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を出るとすぐに道路があり交通量も多いため、安全面に配慮して家族の了解を得た上でやむを得ず施錠している。居室には施錠することなく、共用空間を広くとり、利用者が自由に過ごせるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署による消防訓練を実施している。消火器の使い方、避難訓練等を行っており、隣接の有料老人ホーム、ショートステイ利用者と合同で実施している。地域には訓練の見学や参加を兼ねた広報をしている。	○	地域の人達には、是非、訓練の見学・参加に来られるよう今後も広報を継続して行うことが望まれる。また、夜間を想定した避難訓練も実施することが期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が利用者の健康状態を考え献立をしている。また、利用者の希望メニューにも応えている。職員は食事の量や飲水量を記録し、栄養摂取や水分確保に努めており、記録を医師に見せ指示がある場合は対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くて明るい居間には、ソファと椅子がうまく配置されており、自室に閉じこもらず居間でみんなと過ごすことが楽しいと自然に思えるような配慮がされている。また、居間の壁に飾られた職員と利用者の手作りの折り紙など季節感に溢れたものがあり、四季が感じられるように工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が長年使っていた食器などは、入居時に自宅から自由に持ち込めるようになっている。入居後も家族の作品などが飾ってあり、利用者一人ひとりに応じた居室環境作りに配慮されている。		